

事務事業名		働く婦人の家運営事業			☐ 実施計画登載事業 ☐ 合併建設計画登載事業																									
政策体系	政策名	05 豊かな市民生活を実現する産業の振興			事業期間	予算科目 会計 款 項 目 事業 01 05 01 03 01																								
	施策名	24 雇用の創出と安定																												
	基本事業名	03 勤労者福祉の推進																												
所属	根拠法令	大船渡市働く婦人の家設置管理に関する条例			☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始 平成4 年度 ~) ☐ 期間限定複数年度 [計画期間] 年度 ~ 年度 全体計画欄の総投入量を記入																									
	部課名	商工観光部商工観光物産課																												
	係 名	労政係	電話	27-3111																										
			内線	112																										
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述) 市内に住所又は勤務先を有する女子労働者等の資質の向上や職業生活及び家庭生活の調和を図り、福祉の増進を図る目的で設置した施設である働く婦人の家を円滑に運営するために行う事業である。主な事業は、働く婦人の家の運営に関する基本方針や事業計画を審議する働く婦人の家運営委員会(委員は、知識経験者2人、雇用主の代表3人、使用者の代表3人、関係行政機関の職員2人、市の職員2人)の開催である。						全体計画(期間限定複数年度のみ) <table border="1"> <tr><td rowspan="6">総投入量 (千円)</td><td rowspan="5">事業費 財源内訳</td><td>国庫支出金</td><td></td></tr> <tr><td>都道府県支出金</td><td></td></tr> <tr><td>地方債</td><td></td></tr> <tr><td>その他</td><td></td></tr> <tr><td>一般財源</td><td></td></tr> <tr><td>事業費計 (A)</td><td>0</td></tr> <tr><td rowspan="3">人件費</td><td>正規職員従事人数</td><td></td></tr> <tr><td>延べ業務時間</td><td></td></tr> <tr><td>人件費計 (B)</td><td>0</td></tr> <tr><td colspan="2">トータルコスト(A)+(B)</td><td>0</td></tr> </table>	総投入量 (千円)	事業費 財源内訳	国庫支出金		都道府県支出金		地方債		その他		一般財源		事業費計 (A)	0	人件費	正規職員従事人数		延べ業務時間		人件費計 (B)	0	トータルコスト(A)+(B)		0
総投入量 (千円)	事業費 財源内訳	国庫支出金																												
		都道府県支出金																												
		地方債																												
		その他																												
		一般財源																												
	事業費計 (A)	0																												
人件費	正規職員従事人数																													
	延べ業務時間																													
	人件費計 (B)	0																												
トータルコスト(A)+(B)		0																												

1 現状把握の部 (DO)

(1) 事務事業の目的と指標		活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	
手段(主な活動)		名称	単位
前年度実績(前年度に行った主な活動)		ア 働く婦人の家運営委員会開催回数	回
働く婦人の家運営委員会の開催		イ 働く婦人の家友の会総会開催回数	回
今年度計画(今年度に計画している主な活動)		ウ	
前年度と同様			
対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等		対象指標(対象の大きさを表す指標)	
市内に住所又は勤務先を有する女子労働者及び勤労者家庭の女子		名称	単位
働く婦人の家で実施する事業		カ 市内に住所又は勤務先を有する女子労働者及び勤労者家庭の女子人数	人
意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)		キ	
自主活動を活発にする。		ク	
働く婦人の家事業に参加しやすくする。		成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)	
施設利用者が利用しやすくする。		名称	単位
結果(基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか)		サ 働く婦人の家利用者数	人
安心して働いてもらう。		シ	
充実した余暇活動を行ってもらう。		ス	

(2) 総事業費・指標等の推移			年度	17年度 (実績)	18年度 (実績)	19年度 (実績)	20年度 (実績)	21年度 (実績)	22年度 (実績)		
投入量	事業費	財源内訳	単位	千 円							
			国庫支出金	千 円							
			都道府県支出金	千 円							
			地方債	千 円							
			その他	千 円							
			一般財源	千 円	148	37	41	41	26	27	
	事業費計 (A)			千 円	148	37	41	41	26	27	
	人件費	正規職員従事人数	人	1	1	1	1	1	1	1	
		延べ業務時間	時 間	70	70	50	70	70	70	70	
		人件費計 (B)	千 円	280	280	200	280	280	280	280	
トータルコスト(A) + (B)			千 円	428	317	241	321	306	307		
活動指標			ア	回	2	1	1	1	1	1	
			イ	回	1	1	1	1	1	1	1
			ウ								
対象指標			カ	人	11,800	11,800	11,800	11,800	11,800	11,800	
			キ								
			ク								
成果指標			サ	人	22,912	23,594	25,700	25,895	23,648	17,868	
			シ								
			ス								

事務事業ID	1001	事務事業名	働く婦人の家運営事業
(3) 事務事業の環境変化・住民意見等			
この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？ 平成3年に働く婦人の家が開館したことによる。			
事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは後期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？ 市町村合併、財政難、行政改革などにより、各連絡協議会に加入する働く婦人の家が減少している。			
この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？ 施設の備品等の修繕は速やかに行ってほしい。			

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	政策体系との整合性	☐ 見直し余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 結びついている [理由] 関係行政機関、雇用主の代表、使用者の代表など各分野から選任した委員が専門的見地から運営方針等を審議し、このことが働く婦人の家の円滑な運営に資することから、勤労者の福祉の推進に結びつく。
	公共関与の妥当性	☐ 見直し余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 妥当である [理由] 女子労働者等の福祉を推進するために実施する事業を様々な立場から審議することにより、利用又は参加を促すことから妥当である。
	対象・意図の妥当性	☐ 見直し余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 適切である [理由] 女子労働者等が充実した余暇活動を行うことが目的のため、対象及び意図は適切である。
有効性 評価	成果の向上余地	☒ 向上余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☐ 向上余地がない [理由] 働く婦人の家を実施する講座について、ニーズに合ったものを取り入れ、また、利用会員の自主活動をPRすることにより、成果を向上させる余地がある。
	廃止・休止の成果への影響	☐ 影響無 [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 影響有 [その内容] 専門的見地からの意見を聴取し、婦人の家の運営に反映する貴重な機会であることから、事業を廃止した場合、意見を聴取する場がなくなり、事業運営に様々な意見が反映されなくなる。
	類似事業との統廃合・連携の可能性	☐ 他に手段がある (具体的な手段、事務事業) ☐ 統廃合・連携ができる [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☐ 統廃合・連携ができない [理由] 他に類似事業がない。 ☒ 他に手段がない [理由]
効率性 評価	事業費の削減余地	☐ 削減余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない [理由] 運営委員会開催費用(委員報酬、費用弁償)であり、削減の余地はない。
	人件費(延べ業務時間)の削減余地	☐ 削減余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない [理由] 運営委員会開催事務は1名の職員で行っており、これ以上の削減は難しい。
公平性 評価	受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 公平・公正である [理由] 設置目的から施設使用料は無料としているが、事業実施上、その受講に対し必要な材料費等は受講者の負担としている。

事務事業ID	1001	事務事業名	働く婦人の家運営事業
--------	------	-------	------------

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 1次評価者としての評価結果 (2枚目と整合を図ること)		(2) 全体総括(振り返り、反省点) 平成18年度から事業・管理運営を指定管理者制としたが、平成21年度から新たな指定管理期間となるため、事務量が多かった。																					
<table border="1"> <tr> <td>目的妥当性</td><td>☒ 適切</td><td>☐ 見直し余地あり</td></tr> <tr> <td>有効性</td><td>☐ 適切</td><td>☒ 見直し余地あり</td></tr> <tr> <td>効率性</td><td>☒ 適切</td><td>☐ 見直し余地あり</td></tr> <tr> <td>公平性</td><td>☒ 適切</td><td>☐ 見直し余地あり</td></tr> </table>	目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	有効性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり	効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり											
目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
有効性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり																					
効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
(3) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可) ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☐ 現状維持 事業のやり方改善 (☒ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善) (上記方向性に対する具体的な内容) 運営委員会の開催について、委員の意見が翌年度事業に反映できるよう検討する。 		(4) 改革・改善による期待成果 左記(3)の改革改善案を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1" style="margin-top: 10px;"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td>●</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table> 			コスト			削減	維持	増加	成果	向上		●		維持			×	低下		×	×
		コスト																					
		削減	維持	増加																			
成果	向上		●																				
	維持			×																			
	低下		×	×																			
(5) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等																							

(職 名) 原則として施策の主管課長

4 事務事業の2次評価結果

2次評価者	商工観光物産課長
-------	----------

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 記述水準(1次評価の記述内容を読んだ段階で選択) ☐ 記述不足でわかりにくい ☐ 一部記述不足のところがある ☒ 記述は十分なされている 評価の客観性水準(2次評価を行った後に総合的に判断して選択) ☐ 客観性を欠いており評価が偏っている(事務事業の問題点、課題が認識されてない) ☐ 一部に客観性を欠いたところがある ☒ 客観的な評価となっている(事務事業の問題点、課題が認識されている)																																				
(2) 2次評価者としての評価結果	(3) 評価結果の根拠と理由 事業の意図等を的確に把握しており、適切な評価となっている。																																			
<table border="1"> <tr> <td>目的妥当性</td><td>☒ 適切</td><td>☐ 見直し余地あり</td></tr> <tr> <td>有効性</td><td>☐ 適切</td><td>☒ 見直し余地あり</td></tr> <tr> <td>効率性</td><td>☒ 適切</td><td>☐ 見直し余地あり</td></tr> <tr> <td>公平性</td><td>☒ 適切</td><td>☐ 見直し余地あり</td></tr> </table> 	目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	有効性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり	効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	(4) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可) ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☐ 現状維持 事業のやり方改善 (☒ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善) (上記方向性に対する具体的な内容) 運営委員会委員の意見が翌年度事業に反映できるよう努める。 		(5) 改革・改善による期待成果 左記(4)により期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。また、1次評価と内容が異なる場合には、1次評価の結果も「○」で記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1" style="margin-top: 10px;"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td>●</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table> 			コスト			削減	維持	増加	成果	向上		●		維持			×	低下		×	×
目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																																		
有効性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり																																		
効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																																		
公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																																		
		コスト																																		
		削減	維持	増加																																
成果	向上		●																																	
	維持			×																																
	低下		×	×																																

5 最終評価結果

(1) 行政経営推進会議等での指摘事項
